

テーマE

誰もが住み慣れた地域で 自分らしく暮らす地域社会づくり



健康福祉部ふくし相談支援課

皆さんにとって 自分らしい暮らして？

- ・ 趣味をすること
 - ・ 友達や親しい人と話をしていること
 - ・ 家族と過ごすこと
 - ・ 仕事をしていること
- などなど…



一人一人、自分らしい暮らしは違う。
共通していることは**住み慣れた地域**で
過ごすこと。

では、福祉（ふくし）って何？

福祉（ふくし）とは

ふだん（普段）の

くらし（暮らし）を

しあわせ（幸せ）にすること



じゃあ、今、朝来市では普段の暮らしが
幸せではない人がいるの？

地域で暮らしにくさを抱えた事例が増えている

自殺願望

発達障害

精神障害

援助拒否

連鎖

貧困

孤立

家族関係

ゴミ屋敷

虐待

ふくし相談支援課対応資料
より

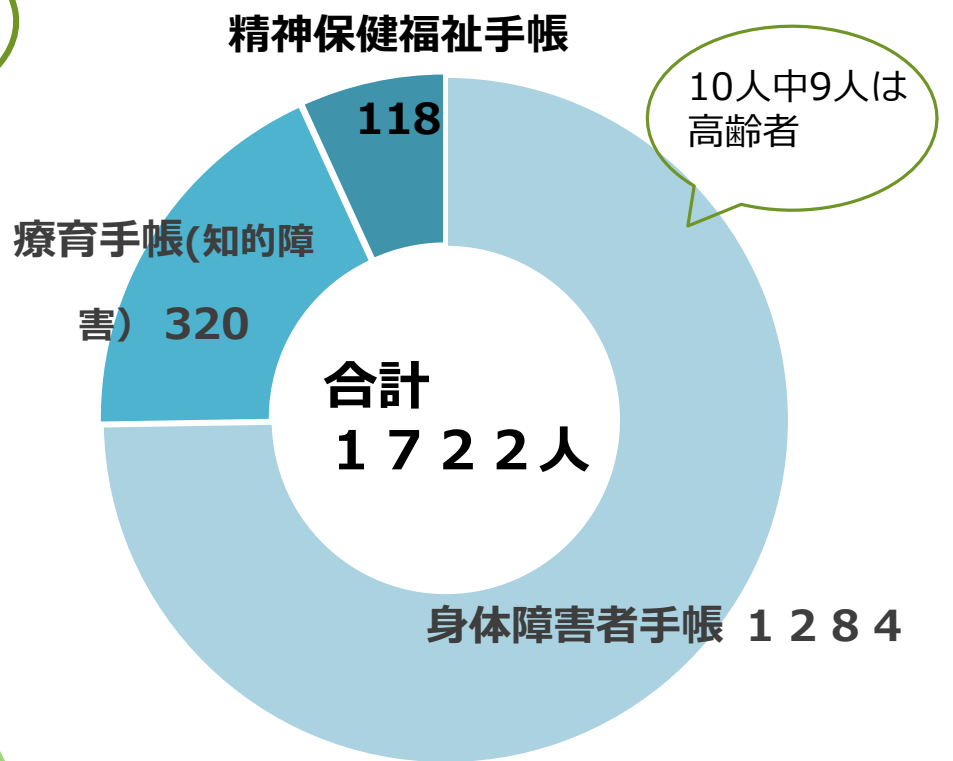
朝来市の認知症及び

障害手帳保有者の人数



高齢者の現状

(R4.3.31現在)



障害者(児)の現状(重複者あり)

(R4.3.31現在)

事例からみる高齢者の暮らしと対応

◆病院からふくし相談支援課へ電話。

- ・ 母（80歳）が本日外来受診し、
栄養状態が悪いため、そのまま入院となった。
- ・ つきそいは民生委員のみ。
- ・ **複合的な課題をもつ世帯であるため、
一緒に支援して欲しい。**



※個人情報保護のため事例の一部は改変しています。

高齢者（80）と引きこもりの次男（50）

急性心筋梗塞にて、3年前突然に逝去。

父
逝去82歳

母
80歳

認知症により、普通の食事が取れていない。道が分からなくなることもある。年金が引き出せない。

結婚し、市内在住だが実家にあまり顔を出していない。

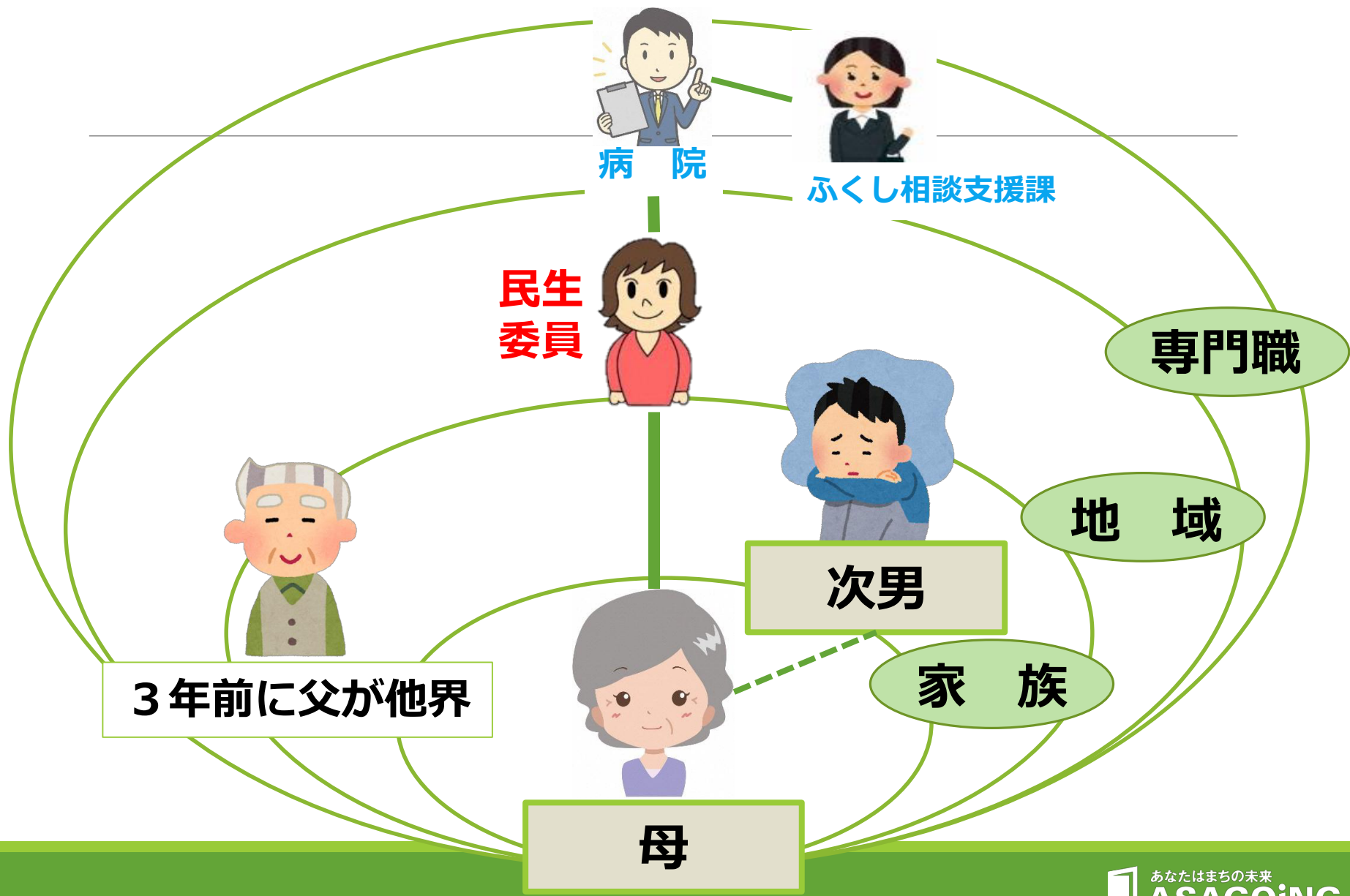
長男
53歳

次男
50歳

35歳頃から引きこもり。母に対して大声を出すこともある。

※個人情報保護のため名前は仮名です。

高齢者と引きこもり（次男）世帯のつながり①



高齢者を支えるための向こう三軒両隣会(個別の地域ケア会議)

【翌週の公民館にて】

- 民生委員の声掛けで、区長、近隣者数名が参集
- 病院の相談員、保健師
- 金銭管理を担当する社協の職員
- 疎遠になっている長男
- ふくし相談支援課が会議を主催

一家を支えるメンバーが集まり、個人情報を守りながら、頭を寄せ合い生活が出来る方法を考える会



向こう三軒両隣会議の成果

● 地域住民と専門職が一緒に考えたこと

- ・ 80歳になる母は、父亡き後も、ひきこもりの息子たちを抱え、精一杯、頑張ってこられた。
- ・ 引きこもりの次男には、何かしら精神的な病気があるのではないか。

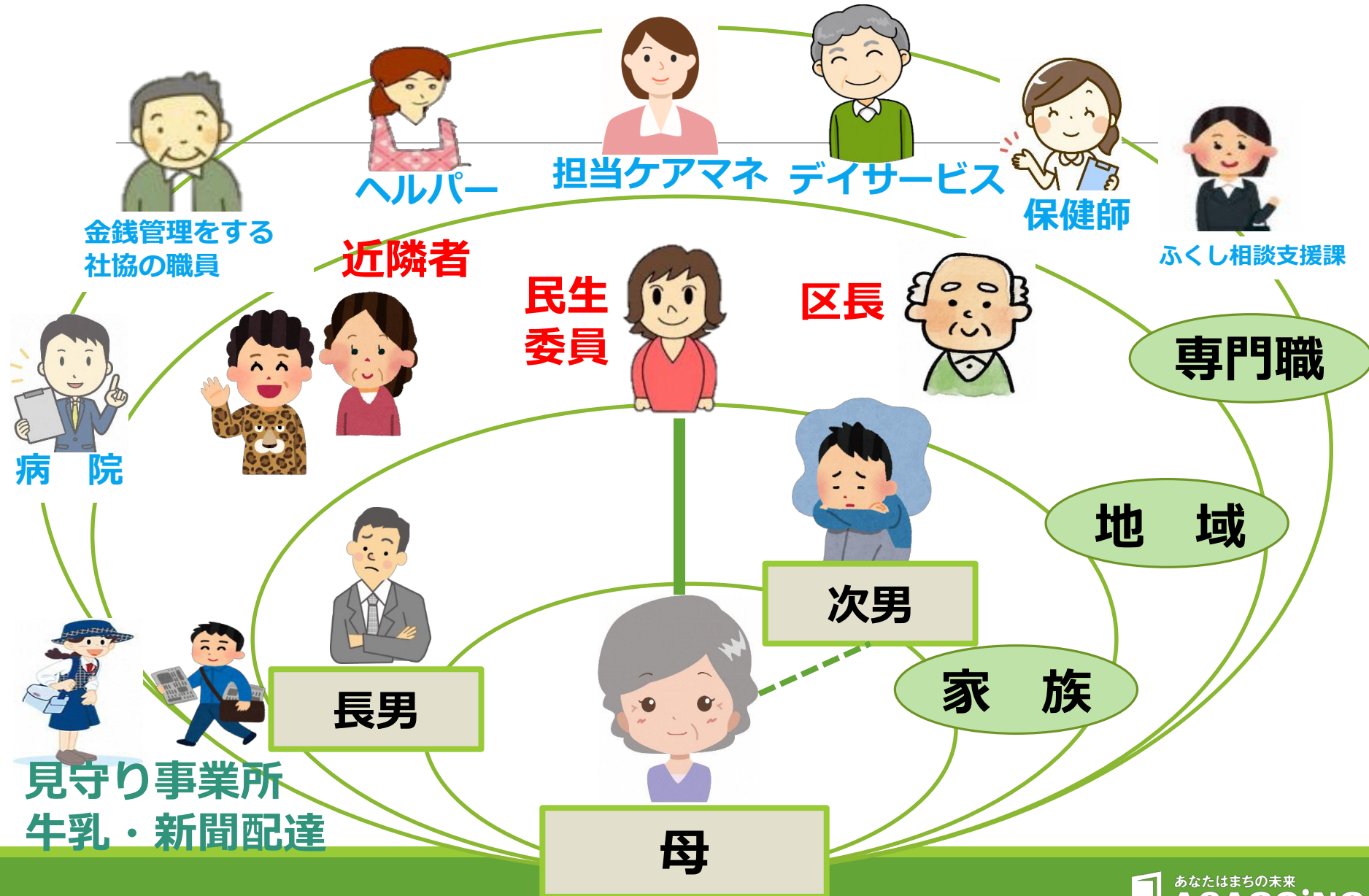
● 母への支援

- ・ 介護保険申請
- ・ 社協の金銭管理の事業の利用
- ・ 近隣者の見守り、差し入れ
- ・ 牛乳の配達員等のかかわり

● 次男への支援

- ・ 保健師の訪問
- ・ 長男からの声かけ
- ・ 関係づくり
- ・ 精神科受診

高齢者とひきこもり(次男)の世帯のつながり②



その後の高齢者と引きこもり世帯の生活

● 母の変化



- ・ 介護保険サービスの利用と地域の緩やかな見守り、声かけの中で、相変わらず閉じこもりがちの生活ではあるが、穏やかな笑顔が増えてきた。

● 次男の変化



- ・ 保健師と長男が、何回か訪問を重ねているが次男とは、まだ話しができていない。

● 地域住民の変化



- ・ 気になる人がいれば相談し、みんなで声をかける、見守るというスタイルが浸透してきた。他の事例の相談にもつながった。

私たちにできること

- それぞれの立場で、福祉（ふくし）のアンテナを持つ。
- SOSを出せない人こそ支援対象者と心得る。
- 早めの相談・かかわりが鍵になる。
ふくし相談支援課に連絡を。



ありたいまちの姿(第3次朝来市総合計画より)

ひとりひとりが 地域とつながる地域共生社会の実現

- ①地域の中で安心して出かけることができる
- ②自分らしく過ごせる役割や居場所がある
- ③地域の中で互いに見守り支えあう体制づくり
ができる